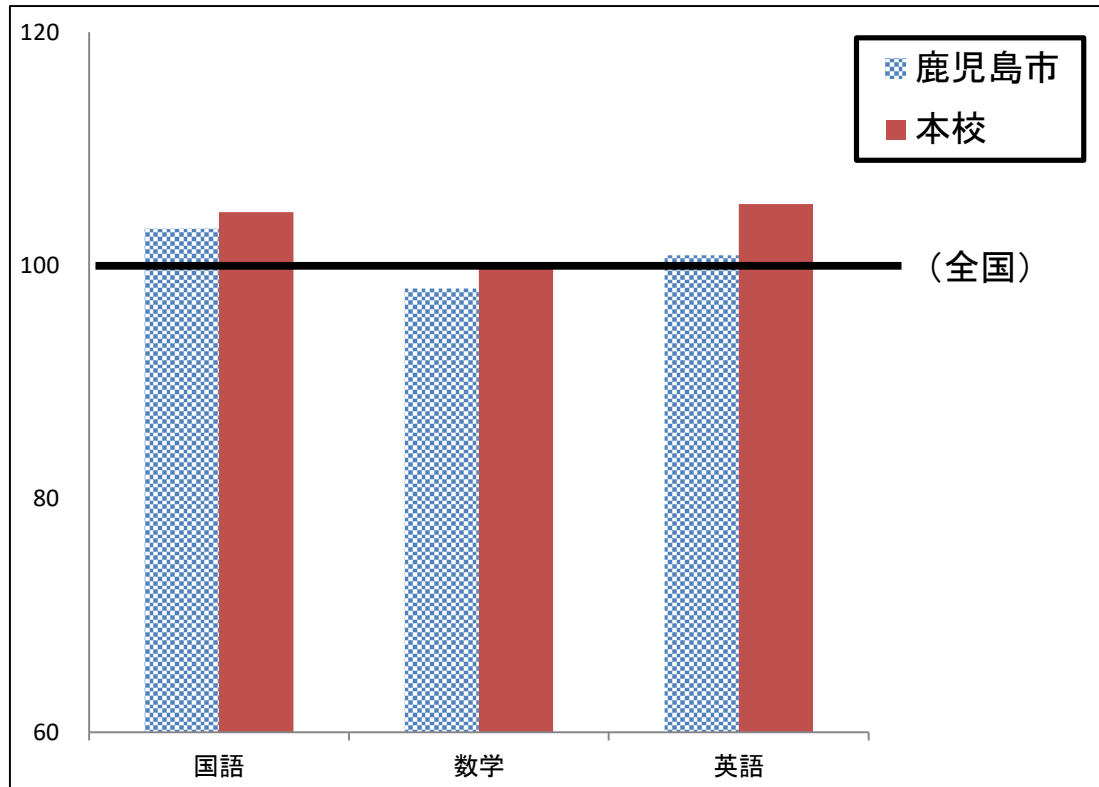


令和5年度全国学力・学習状況調査結果

伊敷台中学校

1 自校・市・全国の平均正答率の比較 〈 全国平均正答率を100とする棒グラフ 〉



2 自校の課題に対する改善策

〈国語〉

全体的に市・県・全国を上回る結果であり、学力が定着してきている。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」いずれの領域でも県・全国を上回る結果となった。一方、問題別では、「二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する」問題の正答率が低い。

そこで、同じ内容で表現が違う文章の表現効果について考え批評する場の設定などの授業改善を図りたい。

〈数学〉

全体的に市・県・全国と同等か上回る結果であり、学力が定着してきている。「数と式」「関数」「データの活用」の領域で県・全国を上回る結果となった。一方、問題別では、「空間図形」「比例・反比例」や「データの分析」に係る問題の正答率がやや低い。

そこで、授業において図形の性質を論理的に考察し表現する場を設定したり、授業始めの小テストや単元末のまとめにおいて基礎・基本的事項や数学的な見方・考え方の問題演習を行ったりするなどの取組を継続していきたい。

〈英語〉

全体的に市・県・全国を上回る結果であり、学力が定着してきている。「読むこと」「書くこと」の領域で県・全国を上回る結果となった。一方、問題別では、「日常的な話題に関する文章の概要を捉えること」「自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ること」に課題がある。

そこで、授業において文章全体を要約させる、単元の導入において身近な現象を用いて事象提示したりして聞き取らせる場を設定したりするなどの取組を継続していきたい。

〈生徒質問紙〉

生徒質問紙の結果から、県・全国と比較して、「自分にはよいところがあると思う」と回答する生徒がやや少ないことから、今後も主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びに向けた指導法改善を行い、自己肯定感を高める指導の取組を継続していきたい。

また、県・全国と比較して「地域行事に参加している」「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と回答する生徒が多かったことから、家庭や地域の教育力が高いことがうかがえる。今後も家庭・地域との密な連携を図るとともに、生徒会活動等を充実させることで、地域に貢献していこうとする態度を育てたい。